

### 【学位授与の方針】

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

#### 1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 医学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

#### 2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して地域における医療・保健・福祉・医療経済など包括医療を巡る動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 研究室選択コース等の学習により医学・医療の進歩における生命科学・臨床医学研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨床実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

#### 3. 医療を担う社会人としての資質

- (1) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず医療の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 6年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、医師の責務を自覚して継続的に社会に還元する強い志を有し、自らを律して社会および医師の規範に従って行動できる。

### 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

#### 1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した6年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育科目において、基礎的な知識と技能を学び、多様な文化と価値観を理解するための文化・自然・現代社会と生活などに関する授業科目（主題科目、共通主題科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報処理科目）、現代的な課題に関する授業科目（共通主題科目）を、選択必修として幅広く履修できるように配置する。
- (3) 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育は、初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
- (4) 医師として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目（コア・カリキュラム）を、以下の「専門基礎科目」、「基礎医学科目」、「機能・系統別PBL科目」、「臨床実習」に大別し、Phase I～Vの区分により1～6年次まで段階的に配置する。

・「専門基礎科目」：高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成する。

- ・「基礎医学科目」：医学に必要な基礎的知識と技能を学ぶ授業科目（細胞生物学，発生学，解剖学，生理学，生化学，微生物学，免疫学，病理学，薬理学）で構成する。
  - ・「機能・系統別 PBL 科目」：疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成し，知識の習得とともに，自己学習の習慣を身につけ，科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施する。
  - ・「臨床実習」：医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を習得するとともに，地域社会における医療の意義を理解し，医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として，またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として，医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施する。
- (5) 学生の目的に応じた分野を自主的に発展させていくアドバンスド・コース科目（研究室等に配属する基礎系・臨床系選択コース，海外研修コースなど）を Phase V として開設する。

佐賀大学学士力と科目区分との対応表

学士力(大項目)	学士力(小項目)	科目区分	
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	主題科目	
	(2) 現代社会と生活	主題科目	
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語	初修外国語科目
		医学英語	医学英語
		情報処理科目	情報処理科目
専門基礎科目		専門基礎科目	
(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	基礎医学科目		
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目	
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	機能・系統別 PBL 科目	機能・系統別 PBL 科目
		臨床実習	臨床実習
		選択コース	選択コース
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目	大学入門科目
		主題科目	主題科目
機能・系統別 PBL 科目		機能・系統別 PBL 科目	
臨床実習		臨床実習	
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	主題科目	
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	臨床実習	
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	主題科目	主題科目
臨床実習		臨床実習	

## 2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に教科主任を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 各 Phase にチェアパーソンを置き、Phase 内および Phase 間の教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

## 3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせることで学習成果を高める。
- (2) グループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などの効果を狙った問題解決型学習（PBL）や演習を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

## 4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 各 Phase の終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- (3) 全国共通の共用試験による臨床実習適格認定審査ならびに卒業認定試験を実施し、医師として必要な実践能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診断能力）の修得状況を判定する。

## <入学者受け入れの方針>

医学部の基本理念に基づき、医学科の教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材育成を行うために、以下に求める学生像、入学選抜の基本方針を示します。

### 【求める学生像】

本医学科の教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求めます。

- (1) 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- (2) 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- (3) 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- (4) 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- (5) 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

### 【入学者選抜の基本方針】

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

1. 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、多様な選抜方法を実施します。
  - ①一般入試（前期日程，後期日程），②推薦入試，③佐賀県推薦入学特別入試，④帰国子女特別入試，⑤私費外国人留学生入試による選抜を行っています。
2. 医学を学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行う。
  - ① 一般入試（前期日程）及び⑤私費外国人留学生入試では、本学で学習する諸科目を理解できる基礎的学力が備わっているか、また、卒業後医療に従事する際に必要な問題解決、論理的思考、表現の各能力を在学中に修得する力を有しているか、を問うための総合問題試験，② 推薦入試，③佐賀県推薦入学特別入試及び④帰国子女特別入試では、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる学力・能力を問うための総合問題による筆記試験を行っています。
3. 医学を学ぶ意欲や医療職者になるための適性を問う試験を行う。

すべての選抜試験において、医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているか、を判断するための面接試験を行っています。
4. 学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行う。

選抜試験の種類により、大学入試センター試験，総合問題試験，面接試験，調査書，高等学校長の推薦書，自己推薦書など選抜方法の組み合わせは異なりますが、これらを総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。また、全ての選抜試験に面接試験を課しており、特に、総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い場合は不合格とすることがあります。

  - ① 一般入試(前期日程，後期日程)

前期日程は、大学入試センター試験，総合問題試験，面接試験及び調査書，後期日程は、大学入試センター試験，面接試験，自己推薦書及び調査書を総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。
  - ② 推薦入試

二段階選考により合格者を決定します。高等学校長の推薦書，調査書及び自己推薦書による書類選考により第一次選考の合格者を決定し，第二次選考は，第一次選考合格者に対して，総合問題試験を課し，面接を行い，第一次選考結果と総合して最終的な合格者を決定します。
  - ③ 佐賀県推薦入学特別入試，

佐賀県による第一次選考及び本学部による第二次選考により合格者を決定します。第

二次選考は、第一次選考に合格し佐賀県から推薦を受けた者に対し、総合問題試験を課し、面接を行い、佐賀県からの推薦理由等を総合的に判断して、最終的な合格者を決定します。

④ 帰国子女特別入試

二段階選考により合格者を決定します。書類選考による第一次選考を行い、第一次選考の合格者に対して、総合問題試験を課し、面接を行い、第一次選考結果と総合して最終的な合格者を決定します。

⑤ 私費外国人留学生入試

二段階選考により合格者を決定します。「日本留学試験」の成績、TOEFLの成績及び出願者の提出書類による書類審査で第一次選考を行い、第一次選考の合格者を決定します。第二次選考は、第一次選考合格者に対し、総合問題試験を課し、面接を行い、第一次選考結果を総合して最終的な合格者を決定します。

**【高等学校段階で修得すべき内容・水準】**

医学科における「6年間にわたる医学教育（カリキュラム）」を確実に身に付けていくためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく修得しておくことが大切です。特に理科系については、生物、物理、化学の基本的な知識と理解を有していることが望まれます。

**【学位授与の方針】**

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

**1. 知識と技能**

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 看護学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、看護職者としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

**2. 課題発見・解決能力**

- (1) 実践演習型学習や多面的な臨地実習の学習を通して地域における保健・医療・福祉をめぐる動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 専門的な看護実践の学習を通して看護理論やエビデンスの検証を基盤にした保健・医療の進歩における看護学研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨地実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

**3. 看護を担う社会人としての資質**

- (1) 看護過程の展開における課題解決（型）学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず看護の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 4年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、看護職者の責務への十分な自覚のもとに、自らを律して社会および看護職者の規範に従って行動できる。

**【教育課程編成・実施の方針】**

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

**1. 教育課程の編成**

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育（全学教育）科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育科目において、文化・自然・現代社会と生活などに関する授業科目（主題科目、共通主題科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報処理科目）、現代的な課題に関する授業科目（共通主題科目）を、選択必修として幅広く履修できるように配置する。
- (3) 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育は、初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
- (4) 看護職者として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目を、「専門基礎科目」と「看護の機能と方法」「ライフサイクルと看護」「地域における看護」「臨地実習」「助産コース」の5つの小区分をもつ「看護専門科目」に大別し、1～4年次まで段階的に配置する。
  - ・「専門基礎科目」：看護学に必要な基礎的知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目（解剖学・生理学、生化学、微生物学、病理学、薬理学、病

態・疾病論，リハビリテーション，放射線診療）と，関連領域の基礎的理解（心理，保健，福祉，行政，地域）や専門的技能を学ぶ授業科目（疫学，統計，プレゼンテーション技法など）で構成する。

- ・「看護専門科目」：看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し，知識の修得とともに，自己学習の習慣を身につけ，科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施する。

「看護の機能と方法」「ライフサイクルと看護」「地域における看護」を構成する授業科目では，医療における看護の役割と責務について理解し，看護の対象の理解や展開される環境において必要な看護の基礎的実践能力を修得する。

「臨地実習」は看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに，地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し，看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として，チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として，医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施する。

「助産コース」は助産師として必要な素養，知識，技術を身に付けるための基本的事項を学修する専門教育科目で構成し実施する。

佐賀大学学士力と科目区分との対応表

学士力(大項目)	学士力(小項目)	科目区分	
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然	主題科目	
	(2) 現代社会と生活	主題科目	
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語	初修外国語科目
		情報処理科目	専門基礎科目
(4) 専門分野の基礎的な知識と技能		専門基礎科目 看護専門科目（看護の機能と方法） 看護専門科目（ライフサイクルと看護）	
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目	
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	看護専門科目（ライフサイクルと看護）	看護専門科目（地域における看護）
		選択科目	
(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目	主題科目	
	看護専門科目（臨地実習）		
	3 個人と社会の持続的発展を支える力	主題科目	
(2) 持続的な学習力と社会への参画力	看護専門科目（臨地実習）		
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	主題科目	看護専門科目（臨地実習）

## 2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に教科主任を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 授業科目の各区分にチェアパーソンおよびコーディネータを置き、区分内および区分間の教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

## 3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせ学習成果を高める。
- (2) グループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などの効果を狙った実践演習型学習や多面的な臨地実習の学習を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

## 4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 各学年の終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- (3) 3年次における臨地実習適格認定審査および各学年に段階的に配置されている臨地実習において看護職者として必要な実践能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく統合的問題解決能力）の修得状況を判定する。



## <入学者受け入れの方針>

医学部の基本理念に基づき、看護学科の教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材育成を行うために、以下に求める学生像、入学選抜の基本方針を示します。

### 【求める学生像】

看護学科では次のような人を求めています。

1. 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
2. 豊かな感性と表現力を身につけている人
3. 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
4. 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
5. 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
6. 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

### 【入学者選抜の基本方針】

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

1. 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、多様な選抜方法を実施します。  
①一般入試（前期日程，後期日程），②推薦入試，③社会人特別入試，④3年次編入学入試による選抜を行っています。
2. 本看護学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行います。  
① 一般入試では、提示された課題について、論理的な思考力や適切な表現力によりの確に記述する力を有しているか、を問うための小論文，② 推薦入試では、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性および種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる学力・能力を問うための総合問題試験，③ 社会人特別入試および④ 3年次編入学入試では、英語，看護専門基礎分野および看護専門分野の基礎的知識に加え、思考力、判断力等を問うための総合問題による筆記試験を行っています。
3. 看護学を学ぶ意欲や医療職者になるための適性を問う試験を行います。  
すべての選抜試験において、看護学科志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し，将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているか，を判断するための面接試験を行っています。
4. 学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行います。  
選抜試験の種類により，大学入試センター試験，総合問題試験，面接試験，調査書，高等学校長の推薦書，自己推薦書など選抜方法の組み合わせは異なりますが，これらを総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。また，全ての選抜試験に面接試験を課しており，特に，総合判定の重要な資料とするとともに，評価が低い場合は不合格とすることがあります。  
① 一般入試(前期日程，後期日程)  
前期日程は，大学入試センター試験，小論文試験，面接試験及び調査書，後期日程は，大学入試センター試験，面接試験，自己推薦書及び調査書を総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。  
② 推薦入試  
二段階選考により合格者を決定します。高等学校長の推薦書，調査書及び自己推薦書による書類選考により第一次選考の合格者を決定し，第二次選考は，第一次選考合格者に対して，総合問題試験を課し，面接を行い，第一次選考結果と総合して最終的な合格者を決定します。

③ 社会人特別入試

総合問題試験を課し、面接を行い、その結果を総合して入学者を決定します。

④ 3年次編入学試験

総合問題試験を課し、面接を行い、その結果を総合して入学者を決定します。

**【高等学校段階で修得すべき内容・水準】**

看護学科における「4年間にわたる看護学教育」を確実に身に付けていくためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく修得しておくことが大切です。特に理科系については、生物、物理、化学の基本的な知識を理解していることが望まれます。